

株主通信

第120期

2020.4.1 ~ 2020.9.30

証券コード 7105

Logisnext

Logistical Equipment & System Solutions Next

三菱ロジスネクスト株式会社

コロナ禍の厳しい経営環境の中、 グループ一丸となって未来を切り拓いていきます。

統合4年目を迎えた当期(2021年3月期)上半期は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の中で減収・赤字計上という結果となりました。今後も厳しい経営環境が予想されますが、企業統合を着実に推進してグループ一丸で難局を乗り越え、物流の新たな課題解決に挑戦し続けます。



代表取締役社長
久保 隆

社長就任のご挨拶

株 主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年6月、三菱ロジスネクストの代表取締役社長に就任いたしました久保でございます。

全世界で新型コロナウイルス感染症が拡大する中、私は社長就任以来、当社グループ全従業員の健康と安全を守ることを最優先に諸施策を推進してまいりました。そうしたコロナ対策を別にすれば、新社長として果たすべき最大の使命は、当社グループがこの3年間、力を注いできた企業統合をしっかりと仕上げ、グループの総合力を最大化していくことであると認識しています。

統合当初は、出身会社により仕事の進め方などが異なる面もありましたが、現在の当社グループは企業文化の融和が徐々に進み、新たな風土が形成されつつあります。当社グループを取り巻く経営環境は非常に厳しいものがあり

- 1984年 4月 三菱重工業(株) 入社
- 2010年 4月 Mitsubishi Caterpillar Forklift Asia Pte. Ltd. 取締役社長
- 2011年 10月 三菱重工業(大連)有限公司 総経理
- 2013年 6月 当社執行役員
- 2017年 10月 当社品質統括室長
- 2019年 2月 当社海外営業本部長
- 2019年 6月 当社上席執行役員
- 2020年 6月 当社代表取締役社長 CEO

ますが、役員・従業員一丸となって残された課題をやり遂げることで名実ともに一つの会社となり、さらなる成長・発展を目指していく所存です。

当上半期の市況と業績の総括

当 上半期の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により深刻な景気後退に陥りました。特に第1四半期には世界各国・地域で移動制限やロックダウンなどの緊急措置が実施され、国内でも緊急事態宣言が発令されるなど、全世界的に社会・経済活動が大きな制限を受けました。当社グループにおいても受注活動の停止や検収の延期などを余儀なくされ、お客様へのアフターサービス提供も滞りました。第2四半期からは国内事業がやや回復傾向を見せましたが、輸出向け受注・売上は依然伸び悩んでいます。海外事業もコロナ禍の影響が落ち着いた中国市場やロックダウン解除後の欧米・アジア市場では多少回復したものの、売上が前期並の水準に戻るにはまだ時間を要する見込みです。

こうした状況の中、上半期の連結売上高は1,854億6千2百万円(前年同期比10.4%減少)の減収となりました。利益面についても、売上の減少を受けグループを挙げて固定費の削減に取り組みましたが、営業損失は4億6千2百万円(前年同期50億9千2百万円の利益)、経常損失は7億8百万円(前年同期47億9千1百万円の利益)、親会社

株主に帰属する四半期純損失は19億6千3百万円(前年同期20億9千4百万円の利益)の赤字計上となりました。なお、のれん償却等の影響を除くと、上半期の営業利益は43億4千2百万円(前年同期比53.7%減少)となっております。

一方、このような厳しい経営環境下ではありますが、当社グループは企業統合の一環として国内外で組織再編を進めています。今年4月には欧州各国の旧ニチユ三菱フォークリフト(以下NMF)系と旧ユニキャリア(以下UC)系の事業会社に分散していた開発・生産・販売の各機能を統合再編し、欧州エリアにおける持株会社Mitsubishi Logisnext Europe B.V.(以下MLE)に本社管理機能と販売統括機能を集約しました。また日本国内においてもこの10月、直系販売会社を再編することによって、これまで旧NMF系と旧UC系の2系列で展開していた販売ネットワークを一本化し、経営効率の向上と戦略の統一及び意思決定の迅速化を図っています。

下半期の取組みと今後の見通し

新

新型コロナウイルスの感染拡大は、今のところ日本国内では一定レベルに抑えられてはいるものの、欧州やアメリカをはじめ海外諸国では秋に入って感染者が再び増加するなど予断を許さない状況が続いています。加えて依然として解決策が見いだせない米中貿易摩擦の継続など、経済の不安定要素も増大しており、当期の世界経済は中国など一部の国・地域を除いては大幅なマイナス成長となると予想されます。

コロナ禍がいつ、どのような形で収束するのか先行きが見通せない中、各国では経済・社会活動の再開を模索する歩みが続いていますが、減退した企業の設備投資意欲が戻り、世界のフォークリフト需要の回復が本格化するまでには、まだかなりの時間を要すると予想されます。

上記を踏まえて、当期の通期連結業績は売上高3,900億円(前期比13.1%減少)と、減収を予想しております。また利益面

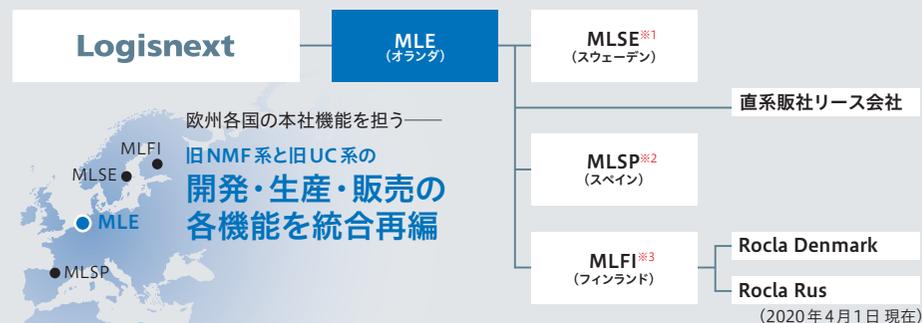
につきましても、営業損失20億円、経常損失25億円、親会社株主に帰属する当期純損失40億円と、残念ながら赤字計上となる見通しです。なお、のれん等償却前営業利益は70億円と、前期実績と比較して113億円の減額を予想しております。

一方、コロナ禍の影響でEコマース市場は世界的に拡大しており、荷物量が増大する中で物流業界では感染症防止対策として自動化・省人化に対するニーズが急速に高まっています。こうした自動化・省人化へのニーズはコロナ禍収束後も拡大を続けることが予想され、この新しい波に乗れるようグループの統合を早急に仕上げるとともに、総合物流機器メーカーとしての自社の実力と社会的な役割を全役員・従業員であらためて自覚し、責任感と使命感を持って全世界のお客様のご期待にお応えしてまいりたいと考えています。

国内外子会社の再編を実施

欧州事業の一体化のため、本社機能を集約

2020年4月1日付で、当社の子会社MLEに、欧州における本社管理機能及び販売統括機能を集約する体制へ変更しました。また、MLE傘下の生産3拠点の商号に「三菱ロジスネクスト」を冠称することで欧州事業の一体感を醸成していきます。



※1 MLSE・・・Mitsubishi Logisnext Europe ABの略称 ※2 MLSP・・・Mitsubishi Logisnext Europe S.A.の略称 ※3 MLFI・・・Mitsubishi Logisnext Europe Oyの略称

国内直系販売会社を一元化

2020年10月1日付で、国内直系販売会社の再編を実施しました。販売・サービス体制を一元化し、より強固なネットワークを構築することで、お客様により一層質の高い商品・サービスを提供していきます。



社長メッセージ

株主の皆様へのメッセージ

当 社はその期の収益状況に対応し、株主各位への配当の充実と企業基盤確立のための内部留保とのバランスに配慮した利益配分を行うことを基本としております。この方針に則り、当期の期末配当金については、前述の業績予想を踏まえ、1株当たり8円で実施させていただく予定です。

これからも当社グループは、様々な産業や人々の暮らしを支える総合物流機器メーカーとして、「世界のあらゆる物流シーンでお客様にソリューションを提供し続け、未来創りに貢献する」との企業理念を実践すべく、“今やるべきこと”に前を向いて取り組み、グループ丸となって難局を乗り越えてまいります。

株主の皆様には、引き続き温かいご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ポストコロナ時代のニーズに応える当社の製品群

自動化 省力化

無人フォークリフト (AGF)

ステアリング、走行、リフト操作などを完全自動化。工場内物流から流通現場まで、あらゆる物流シーンで活躍します。



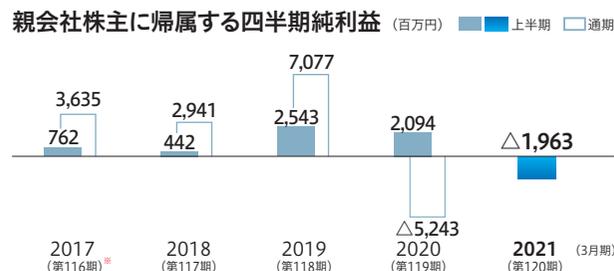
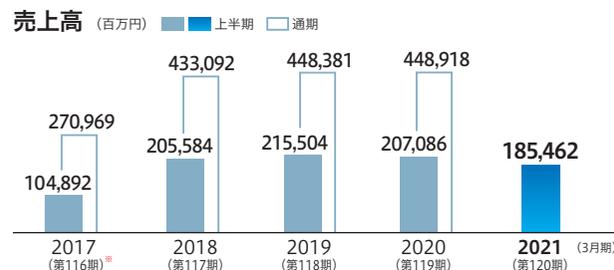
無人フォークリフト

無人搬送車 (AGV)

生産ラインの工程間搬送、配送センター内などにおける搬送作業の自動化に貢献します。



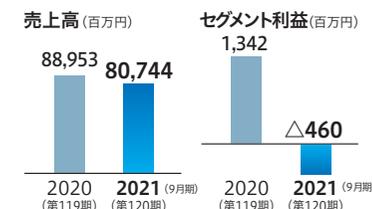
クリーンキャビン搭載 AGV



※ 2017年1月1日付でユニキャリアを完全子会社化したことに伴い、2017年3月期(第116期)1月～3月は、ニチユ三菱フォークリフトとユニキャリアを連結した数値を掲載しています。

事業別業績概況

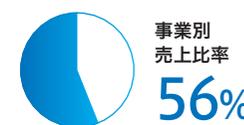
国内事業



国内事業は、6月以降の日本市場の堅調さを背景に当第2四半期連結会計期間におけるセグメント利益は黒字となりましたが、輸出向け受注及び売上の伸長は十分とは言えず、売上高は807億4千4百万円(前年同期比9.2%減少)となりました。全グループを挙げて固定費の削減に取り組んでいるものの、売上高減少による利益減を補うには至らず、セグメント損失は、4億6千万円(前年同期13億4千2百万円の利益)となりました。

なお、のれん等償却の影響を除くと、セグメント利益は21億1千7百万円(前年同期比42.8%減少)となっております。

海外事業



海外事業は、国内事業と同様、当第2四半期連結会計期間においては、コロナ禍の影響が落ち着いた中国市場やロックダウンが解除となった欧米アジアでの伸長によりセグメント利益は黒字となりましたが、前期並までの回復には未だ時間を要する状況であり、昨年7月に買収した米国販売会社 Equipment Depot, Inc.の新規連結寄与があったものの、売上高は1,047億1千8百万円(前年同期比11.4%減少)となりました。売上高減少による利益減少を固定費の削減で補いきれない状況も国内事業と同様であり、セグメント損失は、1百万円(前年同期37億5千万円の利益)となりました。

なお、のれん等償却の影響を除くと、セグメント利益は22億2千5百万円(前年同期比60.8%減少)となっております。

1 各種実験設備を備えた、 技術開発センターが本格稼働。

2020年4月、滋賀工場の敷地内にて実験施設「技術開発センター」が本格稼働しました。この施設は、これまで神奈川・京都・滋賀の3拠点に分かれていた実験施設の機能を集約し、開発機能を強化することを目的に建設いたしました。各種試験設備や、屋内試験場の他、積載荷重23tまでのフォークリフトの実験走行が可能な屋外テストコースを備えています。

当社のモノづくり部門の中核と位置付ける滋賀工場に、技術開発センターを備えることで、「製品品質の向上」「業務効率の向上」「開発リードタイムの短縮」「成長分野への開発力強化」を図ってまいります。



所在地: 滋賀県近江八幡市
建築面積: 実験棟 約2080㎡
事務棟 約1310㎡

2 「ALESIS」がグッドデザイン賞を受賞。 さらなるラインアップ拡充も。



当社が経営統合後に初めて開発した機種であるバッテリーフォークリフト「ALESIS」が、この度2020年度「グッドデザイン賞」を受賞しました。特徴であるスタイリッシュな外装デザインの他、運転席からの視認性や操作性などが高い評価を受けました。2020年10月には新たに3tクラスをシリーズに追加し、より幅広い物流シーンで存在感を発揮します。



3 次世代技術開発を担う、 物流実験センターを新たに設置。



当社親会社の三菱重工業(株)の総合研究所の高砂地区内に「物流実験センター」を新たに開設しました。今後は、次世代技術開発の中核拠点として、無人フォークリフトや無人搬送車を含めた物流機器の技術開発と、お客様への提案を強化してまいります。また、センサーやモニタリング技術など、三菱重工業(株)が持つ先端技術も活用していきます。

画像認識やセンサー技術を使い、トラックに搬出入する作業の自動化や無人走行について実験ができる。

4 米AIスタートアップと技術提携し、 小売店・倉庫向け無人搬送車を開発。

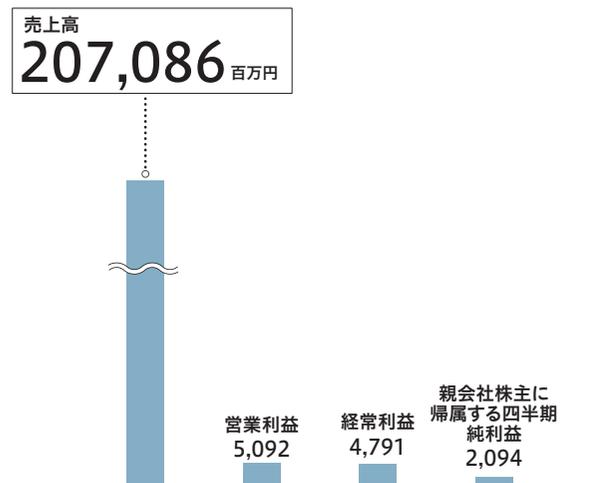


当社グループ会社であるUnicarriers Americasは、ロボット産業向けの人工知能(AI)開発を手掛ける米国のBrain Corpと技術提携し、2020年度中の市場投入を目指し無人搬送車の開発を進めています。人の往来が多い環境でも正確に荷物を運ぶことができるため、物流施設や大型の小売店での導入を見込んでいます。今後も、世界的に拡大する自動化ニーズに対応しさらなる事業拡大を目指します。

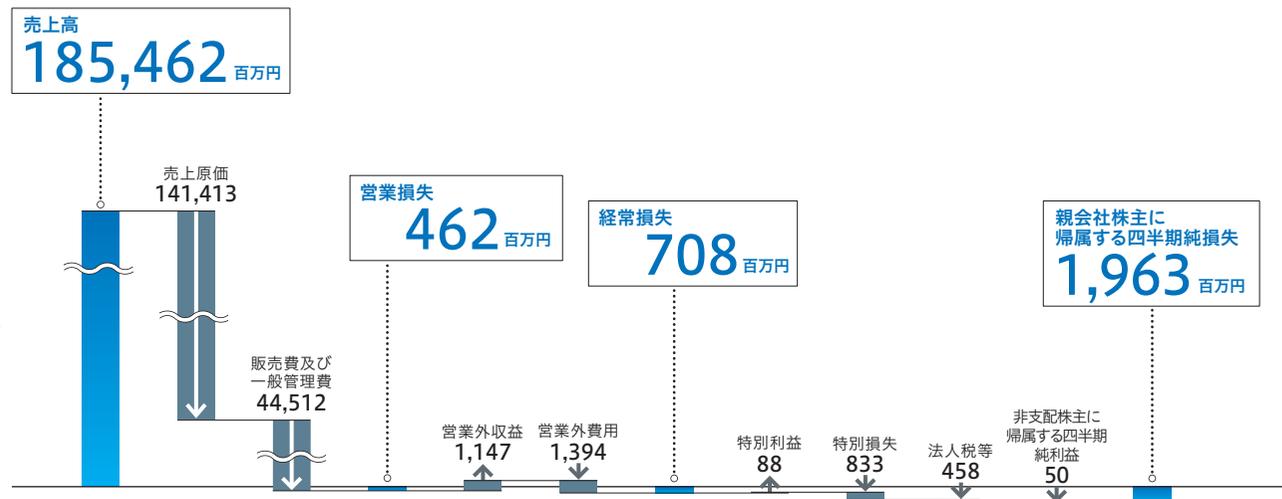
主要連結財務指標

連結損益計算書 (百万円)

前 第2四半期(累計) (2019年4月1日～2019年9月30日)

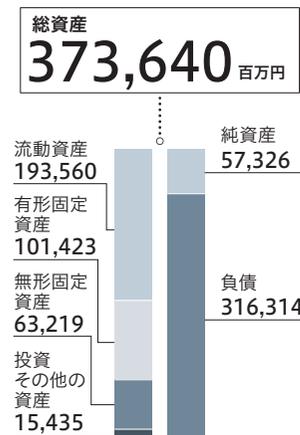


当 第2四半期(累計) (2020年4月1日～2020年9月30日)

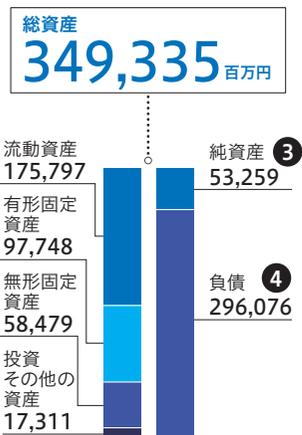


連結貸借対照表 (百万円)

前期末 (2020年3月31日)



当 第2四半期末 (2020年9月30日)

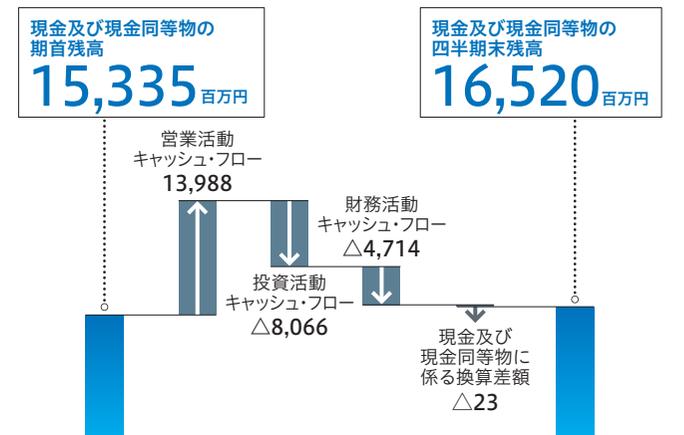


POINT

- ① 流動資産
売上債権の減少等により17,763百万円減少しました。
- ② 固定資産
のれん等償却により6,540百万円減少しました。
- ③ 純資産
新株予約権及び非支配株主持分を除くと50,870百万円となり、4,008百万円減少しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払による利益剰余金の減少によるものです。
- ④ 負債
仕入債務の減少等により20,237百万円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

当 第2四半期(累計) (2020年4月1日～2020年9月30日)



会社情報

会社概要 (2020年9月30日現在)

社名	三菱ロジスネクスト株式会社 (Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)
設立	昭和12年8月
資本金	4,905百万円
国内主要事業所	
本社・京都工場	〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1 TEL:075-951-7171 FAX:075-955-3797
滋賀工場	〒523-0013 滋賀県近江八幡市長光寺町578 TEL:0748-37-6700 FAX:0748-37-3259
安土工場	〒521-1334 滋賀県近江八幡市安土町西老蘇8-1 TEL:0748-46-5511 FAX:0748-46-6854
オンサイト 研修センター	〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字本郷576 TEL:0480-37-2108 FAX:0480-33-8034

取締役及び監査役 (2020年9月30日現在)

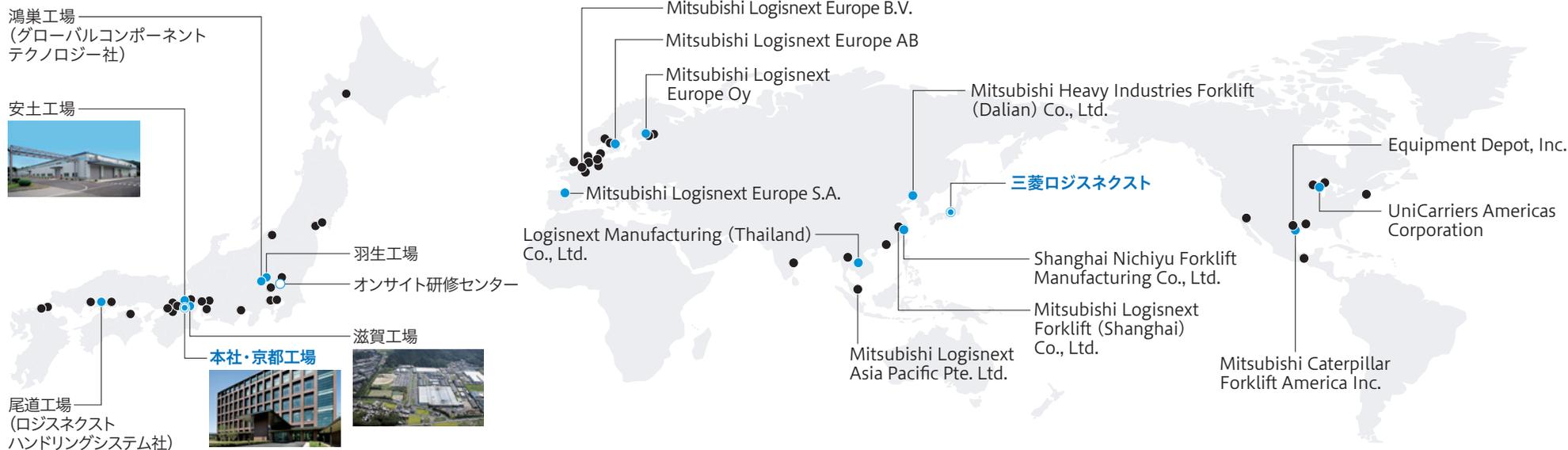
取締役会長	各務 真規
代表取締役社長	久保 隆
取締役	藤田 伸二
取締役	末松 正之 (三菱重工(株)執行役員 グループ戦略推進室長 兼 戦略企画部長)
社外取締役	大河内 健
社外取締役	安藤 修 ((株)島津アクセス代表取締役社長)
社外取締役	小林 京子 (川上塗料(株)社外監査役 弁護士法人色川法律事務所 パートナー)
常勤監査役	馬場 浩司
常勤監査役	市原 信二
社外監査役	倉垣 雅英 ((株)ジーエス・ユアサコーポレーション 顧問)
社外監査役	福岡 靖之 (大日本塗料(株) 常勤監査役)
社外監査役	吉村 茂

会長、社長及び役付執行役員 (2020年9月30日現在)

会長	各務 真規
社長 CEO	久保 隆
常務執行役員	新聞 洋之
常務執行役員	渡邊 博一
上席執行役員	新家 雅隆
上席執行役員	間野 裕一
上席執行役員	大野 雅宏
上席執行役員	Ken Barina
上席執行役員	藤田 伸二

ネットワーク (2020年12月1日現在)

● 生産拠点 ● 主要販売拠点



株式の状況

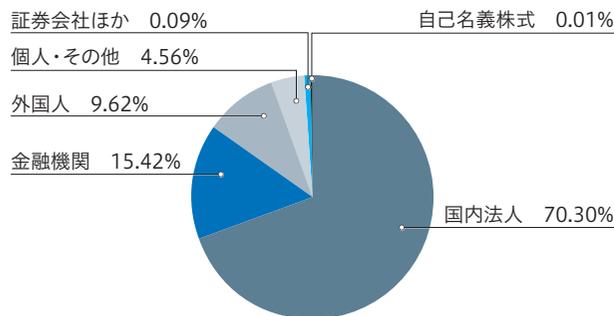
発行可能株式総数	普通株式	392,725,256株
	種類株式	32,274,744株
発行済株式総数	普通株式	106,543,013株
株主数	普通株式	5,379名

大株主(普通株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率	
三菱重工業株式会社	68,888	64.66%	
株式会社GSユアサ	4,701	4.41%	
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,067	3.82%	
株式会社日本カストディ銀行	4,011	3.77%	
明治安田生命保険相互会社	2,765	2.60%	
GOVERNMENT OF NORWAY	2,631	2.47%	
株式会社三菱UFJ銀行	1,363	1.28%	
株式会社京都銀行	1,301	1.22%	
JP MORGAN CHASE BANK	385781	1,070	1.00%
東京海上日動火災保険株式会社	819	0.77%	

※ 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況(普通株式)



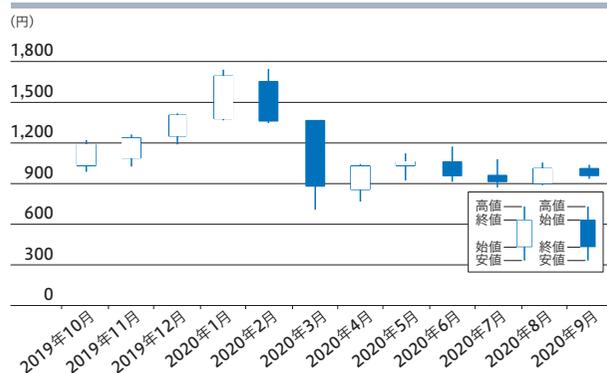
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)	
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-782-031(通話料無料)
同連絡先	東京証券取引所市場第一部
単元株式数	100株
電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7105/7105.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)	
公告の方法	

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価の推移



株主優待制度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に長期にわたり当社株式を保有していただくため、株主優待制度を導入しています。

対象となる株主様: 毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社普通株式100株(1単元)以上を保有される株主様。

優待内容:

継続保有期間	配布内容
2年未満	QUOカード1,000円分
2年以上	QUOカード2,000円分

その他: 株主優待の詳細は、当社HPをご覧ください。

贈呈時期: 優待品は毎年、定時株主総会終了後の6月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」とともに発送いたします。

次回発行分に関するお知らせ

次回発行分(第120期期末)の期末株主通信の発行は行いません。当社の業績・Topicsなどは招集通知及び当社HPをご参照ください。



企業サイト TOP
https://www.logisnext.com/



株主・投資家情報
https://www.logisnext.com/investor/

三菱ロジスネクスト株式会社

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
TEL 075-951-7171
FAX 075-955-3797

